

会員の広場



政治の王道

鈴木 元（名古屋）

どこの国の民主政治にも、それなりの特徴がある。日本の場合は、今まで経済が他の国に比べてうまくいったに過ぎない。従って、日本の政治と国民の関係は全体としてみると薄く浅いし、政治とはどういうことをするのか、国民は何を基準にして政治を判断す

るのか、非常に甘いといえる。

自民党の総裁は任期が定められており、内閣改造がほぼ年中行事化しているため、永田町では、いつも人事の話でもちきりである。

このため、日本の政治はなかなか核心に触れた政策論議を受け入れる余地を作れないでいる。政策論争は当然だが、憲法や国会を軽視し、国民と真摯に向き合わない政治を厳しく問うべきであろう。

真の指導者（総理）の条件は何か。

ただただカネもうけのために政治家になろうとする人は論外である。町議、市議、県議、国会議員といった具合に上昇し、それを自慢している人も失格だ。国政より議員権力に異常な関心を寄せ、国会では心ここにあらずと

居眠りばかりしている人も論外である。

作家の城山三郎さんによると、優れたリーダーの条件として、高淡泊、高感性、高安定の三つを挙げておられる。

高淡泊とは、「自らのために図らず」（広田弘毅元首相）だという。私利私欲を肥やすことのない人をいう。

高感性とは、感受性、高い感性。今だけでなく、10年先、時には100年先の日本、世界、人類の運命を予感し、豊かな感性で物事を判断し、決断する先が見える人をいう。

高安定とは、失意の時にも泰然として動揺しない。逆に得意の時にも手放しで喜ぶことはせず、泰然としている人をいう。

世界の地図は大きく変容し、もはや超軍事

大国だけで世界を切り盛りできなくなった。非軍事国であり、民主国家であるわが日本は特に世界の注目を浴びており、もはや極東の片隅で日本列島のことだけを考えておればよい、という時代ではないのである。

国際的に重責を担う時代のリーダー、国内にも経済成長を維持しなければならぬ時代には、リーダーは識見、能力、先見性が求められている。

政治は最高の道徳でなければならぬ。国にとつて大事なのは、世界の潮流を正確に把握し、加えて日本に漂う空気を正しく読むこと、願わくば総理には毅然たる姿勢をもって高淡泊、高感性、高安定を備えた王道を歩んでもらいたいものである。